

林業福島

No. **648**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

8

2018

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 新緑に咲く花



木製プレートの贈呈

第69回全国植樹祭を終えて

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

会長 齋藤卓夫

平成三〇年六月十日、「育てよう 希望の森を いのちの森を」を大会テーマに、南相馬市原町区雫地内において、東日本大震災の被災地で初めて開催されました第六十九回全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席時には雨も上がり盛大に行われました。

国内外からご参加をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

福島県は、七年前の大震災と原発事故により未曾有の災害を受け森林を取り巻く環境は大きく変化し、森林と人との関わりが薄れることになりました。このような中で、県民参加による森づくり活動を更に推進すべく、国内外からのご支援により海岸防災林の再生に向けた取組を進めてまいりました。

平成二八年六月から始まりました「森林とのきずなづくり植樹リレー」は、県内全域の植樹活動を木製プレートと木製バトンで引き継ぎ、森林保全や森づくりの機運を高めるとともに、森づくりに向けた県民の皆様の想いをつなぐことを目的に行いました。

いわき市植樹祭のリレースタートから、二年間で県内市町村の二〇一ヶ所、森づくり活動に参加された方々は、約一万七千人となり、皆様の想いを記した約六千枚の短冊は、全国植樹祭会場内のオブジェとして展示し、引き継がれた木製プレートは、全国植樹祭式典の中で県知事へ贈呈することができました。

植樹活動に参加され、ご協力をいただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

さて、本協会は、全国植樹祭を契機として人と人のつながりや、森林と人との絆を深め未来の子どもたちへの想いを込めた県民参加の森づくりを一層推進するため、「ふくしま未来の森林・絆づくり運動」を展開しております。

また、「第六十九回全国植樹祭ふくしま2018」開催理念を引き継ぐ「ふくしま植樹祭」の開催決定が発表されており、森づくり活動の輪を大きく広げ、福島の復興を着実に進めることが期待されておりますことから、皆様におかれましては、引き続き森づくり活動への一層のご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

結びに、これまで第六十九回全国植樹祭開催に向けてご尽力くださいました皆様に御礼申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を衷心よりご祈念申し上げます。

《も く じ》

とびら

第69回全国植樹祭を終えて

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

会長 齋藤卓夫 …… 1

第55回全国林材業労働災害防止大会が開催

…………… 2

第69回全国植樹祭に参加して …… 3～6

第47回全国林業後継者大会に参加して

…………… 7～8

普及指導員通信…………… 9

福島県林業労働力確保支援センターだより … 10

木に触れて豊かな心を育む「木育」⑤ … 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー………… 13

第55回全国林材業労働災害防止大会が開催

林業・木材製造業労災防止協会福島県支部

平成30年10月24日(水)、けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター)大ホールにおいて、平成4年以来26年ぶりに本県で第55回全国林材業労働災害防止大会が開催されます。プログラム(予定)は次のとおりです。

[ホール開場、展示]	各種安全衛生用品並びに防護衣等の展示	11:30
	伐木現場の労働災害VR体験など	
[アトラクション]	うねめ太鼓(岩代國郡山うねめ太鼓保存会)	12:10
	フラダンス(ハーラウ・ラウラーナニ)	
[特別講演]	「医食同源」(心と体をつくる食事学)	13:10
	東京農業大学名誉教授 小泉 武夫 氏	
[大会式典]	1 開会のことば	14:50
	2 大会式辞	
	3 来賓祝辞 厚生労働大臣、林野庁長官 福島県知事、郡山市長	
	4 表彰	
	5 大会宣言 (有)ウッド福生 菊池 優子 氏	
	6 講演 「最近の労働安全衛生の動向について」 厚生労働省福島労働局 労働基準部長	
	7 活動等紹介 「我が社の安全衛生」 協和木材(株)安全衛生担当 金澤 忠 氏	
	8 閉会	17:00

福島県では26年ぶりの開催となります。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

平成30年度は、第13次労働災害防止計画の初年度になります。特に林業における伐木等作業中に発生する労災事故が多いことから業種指定となっています。

当協会では、労働安全衛生法で定められた安全衛生教育・特別教育等の講習会を定期的に開催しています。今回はいわき市湯の岳山荘で実施した「伐木等の業務に係る特別教育」について紹介します。

湯の岳山荘を会場に年3回講習会を実施しており、そのたびに協力をいただいているのがふくしまグリーンフォレスターいわき支部会員の皆さんです。班分けしたチェンソー実技指導者として、目立てから伐倒まで受講者にいろいろなことを教えてくださっています。

刈払機と伐木等の講習会は、本年から中・浜・会津の3カ所で開催し、受講者の便宜を図っております。開催予定、案内等は当協会のホームページからご覧いただけます。(www.fmokuren.jp)



樹祭に参加して

たくさんの行事を補助しました。



東日本大震災復興支援への感謝



植樹介添え

川内小学校緑の少年団（川内村） 小林 有紀

私たち川内小学校緑の少年団は、福島県内で最も早く緑の少年団に加盟し、活動を始めた学校です。そのような経緯もあり、今回福島県で開催された第69回全国植樹祭に参加することになりました。震災以降、本格的な活動ができず、植樹祭参加の話を聞いても正直あまり分かりませんでした。また、私にできるか不安もありました。しかし、先生やお家の人から話を聞くうちに、大変貴重な体験ができるということを知り、ぜひ参加してみようと思いました。

今回の植樹祭は、天皇陛下がご臨席される最後の植樹祭ということで、リハーサルの時から会場に緊張感がありました。私は、天皇陛下のお手植えの際に、くわをお渡する役でした。本番当日に向けて何度も練習し、自信を持てるようになりました。本番では、テレビでしか拝見したことのない天皇皇后両陛下にお会いできて、とてもうれしかったです。また、私に与えられた役割は、しっかりと果たすことができたと思います。

私は、天皇皇后両陛下がお手植えになった樹木が、これから先も大きく、丈夫に成長してほしいと思います。また、今回植えられた樹木に負けないように、私も大きく成長できたらいいなと思います。今回植樹祭に参加できたことは、私の一生忘れられない思い出になりました。

石神第一小学校緑の少年団（南相馬市） 今野 快人

全国植樹祭本番の日は、練習のときよりも人が多く、緊張しました。だけど、ぼくは、出番も少ないので、練習したことをしっかりやれば、本番でも、まちがいや失礼が無くできるだろうと思いました。

ぼくは、農林水産大臣とデンマーク王国特命全権大使の植樹のお手伝いをしました。本番では、練習を生かして、自分の担当や役割を忘れずに、果たせました。役目をやりとげた時は、すごくほっとし、やれて良かったなあと思いました。

この全国植樹祭は、貴重な経験になり、参加できて良かったです。



お手植え介添え

（三春町） 宗像珠稀子

お手播き介添えとして全国植分の出番が近づくにつれ、緊も深呼吸をして気持ちを落ち着け、頭が真っ白になった顔で気持ちが和らぎました。

の近くに咲いていますね。き

いました。優しく、笑顔で、いただいたことがとてもうれしと私も自然に笑顔になってい

た種やお手植えされた苗が、森・いのちの森」へと育てて、いつかその森を訪れてみ成功して本当に良かったです。

リレー
セレモニー



お手播き介添え

山上小学校緑の少年団（相馬市） 佐藤あすか

私は全国植樹祭で思い出に残ったことが2つあります。

1つ目は、リレーセレモニーを担当したことです。担当することになった時、みんなの代表として立派に役目が果たせるようにがんばろうと思いました。練習では立ち位置をまちがえることもありましたが、本番では緊張したけれど成功できたので良かったです。

2つ目は、練習の時に話をしたことがきっかけで高校生の人や他の小学校の人とも友達になったことです。たくさんの人と交流できたこともとてもいい思い出です。

また、両陛下にお会いできたこともよい経験となりました。これからも自然を大切にし、よい環境を作っていきたいと思います。

新地町緑の少年団（新地町） 小泉 直大

ぼくたち「新地町緑の少年団」は、南相馬市雫地区で開催された「全国植樹祭2018」に参加し、「育てよう 希望の森を 命の森を」を大会テーマに、福島の再生・復興を願いました。

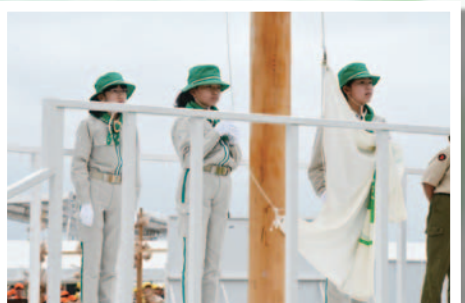
ぼくを含む5人が、皇后陛下のお手植えのお手伝いをしました。人生に一度あるかないかの大仕事で大変緊張しました。しかし、皇后陛下は、ぼくにとてもやさしく声を掛けてくださったので、緊張もほぐれ無事に大役を果たすことができました。

「新地町緑の少年団」は42年の歴史があり、緑化活動を中心に取り組んできました。その活動もぼくは今年度で終わりなので、「全国植樹祭」で集大成を飾ることができました。

今回の大きな経験を生かし、新地町、そして福島の復興のために役立つような活動を今後も行っていこうと強く思いました。



お手植えの介添え



三旗掲揚

大甕緑の少年団（南相馬市） 宮田 直春

ぼくは、大甕緑の少年団員として全国植樹祭に参加しました。今回の全国植樹祭は、「東日本大震災の復興をがんばっています。」ということ全国に伝える植樹祭だったと思います。また、この植樹祭には、天皇皇后両陛下もご臨席いただき、ぼく達のことを勇気づけてくださいました。今回の植樹祭を通して、「自然を大切にしよう。」と強く考えるようになりました。そして、ぼくは、たくさんの人の前でメッセージを伝えました。いくつものカメラがぼく達に向いていて、とても緊張しましたが、心を込めて発表することができました。発表が終わった後、「やりとげた、良い発表ができた。」とうれしい気持ちでいっぱいでした。

次にこの南相馬で、また植樹祭が行われることになったら、もっと復興している姿を発信して行きたいです。

大野小学校緑の少年団（相馬市） 渡邊 希空

私が今回の全国植樹祭で学んだことは「自然を大切にする」ということと「協力すればどんなことだってできる」ということです。

福島県の浜通りは、地震や津波など大きな被害を受けました。家も木々などの自然も津波で流されてしまいました。それでも津波で流された木々を新たに植えようと努力してきました。それが今回の全国植樹祭で行われた植樹につながってきます。育てた苗を大切に植え、やがて育った木々は防災林となって災害などから私たち福島県民を守ってくれます。

私は植樹祭で自然を以前よりも大切に思うようになり、自然がもっと好きになりました。今の気持ちを忘れず、これからも自然を大切にし、みんなで協力していこうと思います。



苗木の贈呈



代表記念



お手播き介添え



森づくりのメッセージ

中郷小学校緑の少年団

6月10日、皇后陛下の樹祭に参加しました。自張してきましたが、何度着かせました。自分の出たけれど、皇后陛下の笑皇后陛下は、「『シャリンバイ』は、海れいな種ですね。」と、お声をかけてくださそして丁寧に種を播いてしかったです。気がつくしました。

両陛下がお手播きされ元気に成長し、「希望のほしいと思います。そしたいです。全国植樹祭が

第69回全国植樹祭に参加して ■

～メインアトラクションでは、高校生の皆さんが未来に進む県民の姿を伝えました～

福島東高等学校 ダンス部 部長 安藤 優希

私は、第69回全国植樹祭では、メインアトラクションに出演しました。普段私が練習しているストリートダンスとは違い、大会テーマを演劇で表現するのは難しいと不安でしたが、福島の高校生が元気で頑張っている姿を伝えるのに役立ちたいと思い、参加しました。

演劇部・ダンス部・チアリーディング部など活動が違ったり、県内全域から集まる約130人の高校生と一緒に作り上げていくのはとても大変でした。でも、スタッフの皆さんの熱い指導や顧問の先生方の協力のもと、本番まで頑張って練習し準備してきました。本番は想像以上の参加者が会場に集まっていた、思いを届けられるか不安になりましたが、天皇・皇后両陛下をお迎えし音楽が始まると、震災のときの思いや支えてくれた人への感謝の気持ちがこみ上げ、今の福島を伝えたいと自信を持って舞台上上がることができました。クライマックスではぴったりと息が合い、みんなの気持ちが一つになりとても感動しました。

また、植樹祭に参加して、森林・林業の再生が福島の復興を牽引し、大勢の人が林業に携わり、頑張っていることがわかりました。植樹祭への参加を機に、私も豊かな自然を次世代に繋いでいく一員として、もっと協力できることを考え、実行していきたいと思いました。



福島東陵高等学校 演劇部 平舘果菜絵

私は、第69回全国植樹祭のメインアトラクションの中で高村智恵子役として出演させていただきました。約7分間という短い時間ではありましたが、天皇・皇后両陛下の前で演技できたことは本当に光栄で、とてもよい経験となりました。

中学時代、内向的だった私は高校で演劇部に入部しました。そして、日々の練習やいろいろな舞台に立つことで自分自身が見違えるように変わっていくことを感じました。もともと演劇は好きでしたが、いざ舞台に立って人前で演技をするというのはやはり緊張するものです。でも、終わったときの達成感や充実感は何にも代えがたいものがあります。

私が演じさせていただいた高村智恵子は、本当に福島の自然が大好きだったのでしょうか。若い時の元気で福島を大好きな智恵子をイメージして演じました。また、高村光太郎の『樹下の二人』という詩の舞台となった鞍石山に私も立ってみました。その自然は今でも変わらず、私の心も洗われるような感じがしました。そしてこの自然がいつまでも続いて欲しいとも思いました。

全国植樹祭が行われた場所は7年前に津波があった場所でした。会場の周りには苗木が植樹され、いつか木々が生き茂ることでしょう。その木々たちに智恵子や私の思いを託し、福島の希望ある未来につながってほしいと思います。

■ 第69回全国植樹祭に参加して

～式典では福島の若い力が元気を発信し、そしてフィナーレを迎えました～

相馬高等学校 相馬太鼓部 部長 渡部 有南

私達は、相馬高校相馬太鼓部として全国植樹祭のエピローグ「相馬流山による変奏曲」の中に出演させていただきました。1分半という短い時間ではありましたが、精一杯演奏しました。

昨年末、全国植樹祭担当の方々が相馬高校に直接いらして、今回の参加を要請されました。ですが、私は植樹祭がどういうものが全く知らなかったので、出演することについては「いつもの演奏依頼と同じ」程度でしか考えていませんでした。しかし、本番が近づくにつれ、徐々に緊張が高まっていきました。私達が演奏した曲は、相馬では馴染みの相馬盆唄をモチーフにした「相馬の宵」という相馬太鼓部オリジナル曲の後半部分でした。この部分は、複雑なリズムが絡み合い、振りにも音にも迫力を感じられる曲です。

本番当日、天候が不安定で、演奏も困難に思われました。そんな中、出番が近づくにつれて雨も止み、コンディションは万全ではありませんが、なんとか演奏できました。それは本当に一瞬の出来事でしたが、演奏後の達成感は覚えています。

48年ぶりの福島県での全国植樹祭、そしてそれが現天皇皇后両陛下最後のご来県、その事と私の短い太鼓人生が重なった奇跡の日でした。この感動は一生忘れません。全国植樹祭に携わった全ての方々に感謝します。



会津学鳳高等学校 放送部 岸本 春花

このたびは高校生の司会という形で全国植樹祭に携わることができ、筆舌に尽くし難い喜びと達成感に加え、このような機会を与えて下さった方々への感謝の気持ちで胸がいっぱいです。木を植え、森林と共存していくことの意義を再認識し、福島を感じ、それを発信していく。それは参加者全員が同じ温度で協力しなければ叶わないことであり、そして見事にそれを成し遂げた全国植樹祭は本当に素敵だと思います。また、全国植樹祭では福島の伝統芸能や特産品の紹介も行われ、福島の復興に寄与するような、元気を広げる場としての一面もありました。

全国植樹祭を通じて福島の良さが伝わり、福島へ足を運んだり福島の美味しい食材を味わうことで、一人でも多くの人に福島を好きになっていただけたら嬉しいです。

とはいえ、このような大役を任された当初は一抹の不安を抱えていました。しかしその不安もリハーサルを重ねていくうちに拭い去られ、心から全国植樹祭を楽しむことができました。福ある島、福島で全国植樹祭のバトンを繋ぐことができて良かったです。私にとって、非常に貴重な体験として、とても楽しかった思い出として、一生忘れられない一日となりました。私たちが繋いだバトンが愛知でも輝くことを心よりお祈り申し上げます。

継者大会に参加して

～先輩方と現役世代の発表とパネルディスカッションが行われました～

山本壽美子

私は、昭和45年に開催された「第21回全国植樹祭」でお手植えの介添えをした緑で、全国林業後継者大会に参加の機会を与えていただき、ありがとうございました。たくさんの方々が会場に集い、発表に耳を傾けてくださいましたことに感謝申し上げます。

さて、今林業では、生計の足しになるような収入は見込めません。私達の若い頃は、台所改善（今のリフォーム）をするときは、杉山を売って、そのお金で支払っていました。それが当たり前のことでした。今は給料で子どもの教育、家計、機械購入と何もかもやらなくてはなりません。

しかし、今大会、現役世代からの発表者である若い人達が頑張っている姿を見ますと、「林業もすてたものではない！」とたいへん心強く思います。しかし、もっともっと魅力ある林業にするには、県、国の力を借りながら、前に進んで行く必要があると思います。



私が一つだけ心配していることがあります。

それは、子どもが自分の家の山を知りません。これが今の林業の現状です。林業に魅力があれば、このようなことは徐々に減ってくると思われます。私達の時代に何とかせねばと思っています。

今大会で、現役世代の話を聞いてたいへん頼もしく思っています。林業に関係する皆さん、みんなで頑張りましょう。



田人林業研究会 緑川 平隆

平成30年6月9日、いわきアリオスにおいて、「第47回全国林業後継者大会」が開催されました。

大会のテーマである、「未来へと つなげる心 森林づくり」の「つなげる心」の部分を取りあげ、林業界の先輩方、現役世代、次世代を担うであろう学生の皆さんの、それぞれの体験談と事例発表が行われました。

私は、水野林業の水野廣人さん、NPO法人みなみあいづ森林ネットワークの松澤瞬さんとともに、現役世代からの発表を行いました。お二人ともに活動内容は若々しく、発展的であり、一緒に発表した私にとっても大変参考になるものでした。

また、先輩方の林業にかける想いや昭和45年の「全国林業後継者のつどい」での思い出のお話、学生の皆さんによる体験事例など、大変有意義な活動発表を聞くことができました。



大会の最後には、若手林業者を代表し、豊田和弘さんと平子睦美さんによる力強い大会宣言がありました。

思い返すと、平成12年9月17日、猪苗代で行われた「第24回全国育樹祭」に参加した時、私は「誓いのことば」として今回の大会宣言にあたるものを読み上げる立場でありました。18年を経て、自分が年を重ねたのと同時に、これから林業界を牽引していく若い林業者もたくさん現れてきました。また林業に興味を持つ学生もいます。林業は後継者不足、就業者の高齢化と、明るい話題はありませんでしたが、今回の全国林業後継者大会に参加して、福島県の林業はまだまだ元気で、将来明るいものであると確信しました。

第47回 全国林業後

～次世代からの発表があり、最後に大会宣言で幕を閉じました～

福島大学 とげっちょ組～地域活性化サークル～ 代表 七海 航平

「大学生の自分達から、福島県に森林・環境保全の`わ、を広げていきたい」。

そういうただひとつの思いから、私たち、とげっちょ組は奮起し、他大学の学生や企業、行政やNPO法人といった、様々な立場の人と協働し、そして「次世代からの発表」として、第47回全国林業後継者大会で報告できるような、誇れる成果を得ることができました。

大会終了直後、とげっちょ組の活動が認められたことに感慨を覚えると同時に、自分たちと同じく、また、それ以上に福島の森林の未来について真剣に考え、こうありたいという目標に向かって取り組んでいる方がたくさんいらっしゃることに、胸が熱くなりました。

そんなひとりひとりの情熱が実を結び、いつか福島県民全員が森林に向き合い、福島県の林業が大きな発展を遂げることを切望するとともに、その未来に少しでも助力できるよう、大学生という自分たちの`強み、を活かして、これからも森林・環境保全の`わ、を広げられるような活動に取り組んでいきたいと思います。



平子 睦美

去る6月9日、いわき市平のいわき芸術文化交流館アリオスにて開催された第47回全国林業後継者大会に、大会宣言の発表者として参加しました。

大会では様々な形で林業に関わっている方々のお話を聞くことができました。中でも福島県で以前開催された昭和45年の第21回全国植樹祭や全国林業後継者のつどいに参加された方々のお話はとても貴重でした。これは言いわけですが、私は平成生まれで昭和の計算が苦手なため、昭和45年と1945年を間違え「前は戦後すぐだったのか」などというとんでもない勘違いを起こしていましたが、無事途中で気付くことができました。

開催までに自分の中では「本当に自分でいいのか」といった多くの不安や葛藤がありましたが、いざ本番を迎えるとあっという間に終わった一日でした。出来はともかくとして、アリオスの舞台に立つという貴重な体験をさせていただきとても光栄です。

最後になりましたが、大会実行委員会の皆様やいわき市役所の皆様をはじめ、今回の全国林業後継者大会の開催に携わった方々へこの場を借りて御礼申し上げます、我儘を言ってご迷惑をおかけしたかと思いますがありがとうございました。



南会津産木材市を開催しました

南会津農林事務所

林業普及指導員 山田 憲 司

去る6月7日、南会津町のだいくらスキー場の駐車場を土場として開催された「第16回南会津産木材市」が開札となりました。南会津産木材市は、平成23年から、震災からの復興と南会津地域材の安定供給及び利用促進を目的として年2回開催され、毎回約5百～1千㎡の木材が出材されており、今回の市では535㎡の出材がありました。

この木材市は、南会津郡内の素材生産業者、森林組合等15の団体で組織された「南会津地方木材安定供給連絡会議」が主催し、福島県中央木材市場が運営、南会津農林事務所が事務局となり開催しております。

木材市を開催するに当たり、中央木材市場に造材の方法や積積の注意点など、買手が求めるポイントや木材価格の傾向について説明をお願いし、各素材生産業者が出材する際の参考にしてもらっています。

また、出材量を確保するために、農林事務所の木材市担当者が素材生産業者や国有林に出材を働きかけるとともに、農林事務所でも県営林事業で生産した素材を積極的に出材しています。

さらに、出材された木材の検知は連絡会議構成員だけでなく、農林事務所森林林業部の職員も総出で行うことで、樹種の判別や良材の見方、木材価格について、特に若手職員のOJTにもつながっています。

さて、南会津産木材市の傾向としては、カラマツの出材量が比較的多く、第16回木材市では、総出材量の57%を占め、スギは27%となっています。

カラマツは、郡山で開催される中央木材市場での取引価格と比較しても差が無く、郡山までの運送料を考えると南会津産木材市開催のメリットは大きいと思われます。

一方、スギは郡山での取引価格と比較すると安価で取引されており、これは運送料見合い分が安価となっているともとれますが、もう少し高値となるよう工夫したいところです。

なお、スギは地元の製材業者が購入する傾向があり、利用者にとっては地元開催のメリットは大きいと思われます。

南会津町は林業成長産業化地域創出モデル事業の一環として、今後、広葉樹材の市場の開設を検討しているところであり、このためにも、南会津産木材市をさらに盛況に開催する必要があることから、出材量増加に向けた、安定した素材生産の体制整備や販路拡大に努めていく必要があります。

森林整備の現場においても木材需要の動向をみながら、短期的には現在伐期を迎えつつある森林の活用、長期的には南会津の特性を活かした森林づくりを、事業体や町村と連携して進めていきたいと考えています。



事務所職員の検知（広葉樹の検知は難しい）



木材市開催に向けた連絡会議



南会津産木材市土場

福島県林業労働力確保支援センターだより

林業就業者育成の

取組について



林業人材育成研修会にて講師からチェーンソー伐木の直接指導を受ける様子

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センターでは、林業の持続的かつ健全な発展のため、事業体の雇用管理の改善、および林業の担い手の育成・確保を目的として、各種の事業を行っています。

ここでは、今年度これまでに取り組んできた事業について紹介します。

◎「緑の雇用新規就業者育成推進事業（フォレストワーカー研修）」

認定林業事業体の新規就業者を対象とし、三年間で体系的に知識と技能の習得ができるよう全国統一のカリキュラムのもと、集合研修と実地研修（OJT）を実施しています。

今年度の研修生は、一年生が三九名、二年生が三二名、三年生が三二名の計一〇三名となっていて、参加者数は、前年度（一〇二名）とほぼ同様となっています。

①指導員能力向上研修

「緑の雇用」事業における実地研修（OJT）の指導員の資格取得を目指す方を対象として、指導員の役割や指導方法などを中心に五月二十九日から三十一日までの三日間、「フォレストパークあだたら」

②集合研修

において実施し、二五名の方が新たに指導員となりました。

集合研修は、各年の研修生が一箇所に集合し、座学や実習を行います。今年度のカリキュラムは、一年生二七日間、二年生二五日間、三年生二〇日間になっています。

六月一日から始まり七月十三日まで終了した主な集合研修は、一年生では、林業の社会的責任と関係者との協働の講義、刈払機・チェーンソーの特別教育やメンテナンス、造林育林、健康管理、森林調査、コンパス測量等です。

二年生では造林、刈払機やチェーンソーのメンテナンス、車両系木材伐出機械特別教育の学科、森林調査、三年生では車両系木材伐出機械特別教育の学科です。

③実地研修（OJT）

事業体が行う研修（最大八か月間）です。六月から開始し、現在、四五の認定林業事業体で行われています。

◎林業就業者キャリア形成支援事業

林業就業者の定着促進を図るため、林業就業者がキャリア形成に必要な知識を習得することを目的として、天栄村において六月二二日に「林業人材育成研修会」を行い、二六名の方が参加しました。講師は、昨年度に引き続き、林材業安全技能師範の小田桐久一郎氏にお願いしました。

午前中は、「文化の森てんえい」（天栄村施設）で「林業労働安全に係る考察とWLCルールの競技安全対策」という講演の中で、正確な伐倒の必要性や安全なチェーンソーによる伐倒について説明がありました。午後は、天栄村大里地内で現地研修を行い、見本となるチェーンソー伐木実技があり、そこで、参加者のうち三名の方が小田桐講師の直接指導を受けました。

講師の伐倒木はいずれも狙った位置に倒れ、伐倒技術の高さに参加者から大きな拍手が起きていました。

◎終わりに

今後も様々な事業を予定しており、逐次広報を行いますので、ご活用をお願いします。今後実施予定の主な研修などの事業は、次のとおりです。

①森林・林業担い手育成事業

高校生等の職場体験、セミナーの開催、林業女子会への支援等を行う事業です。

②現場技能者キャリアアップ対策（フォレストリーダー研修）

効率的な現場作業を主導することのできる現場管理者を育成する事業です。

③森林作業道作設研修

作業道の作設に関する事業で、初級研修とフォローアップ研修に分かれています。

④森林づくり研修会

森林づくりの理念や持続可能な森林経営に関する講演を予定しています。

⑤林業就業支援講習

林業就業希望者が、十二日間にわたり林業の基礎的な研修を受けるものです。



指導員能力向上研修



緑の雇用集合研修（FW2）



林業人材育成研修会（現地研修）



調印式及び贈呈式

〇はじめに
 埴町は、平成三〇年一月二二日、ウッドスタート宣言に調印しました。森林面積が総土地面積の八割を超え林業・木材産業が盛んな埴町では、これまでも学校建築をはじめ木製机、木工教室など教育の場においても木材の利用が進められてきましたが、地域資源を活かした子育て支援事業を横断的に取り組むため、ウッドスタートを宣言し、県森林環境基金事業も活用しつつ「木育」の推進に取り組んでいます。

木に触れて豊かな心を育む「木育」 ウッドスタート宣言（埴町） ⑤

林業福島事務局

〇誕生祝い品の贈呈

町では、調印式と併せ行った贈呈式に出席した方に誕生祝い品として「花のつみき」を贈呈しました。「花のつみき」は、町の花「ダリア」をモチーフとして、シンプル・笑顔をコンセプトに、県産ヒノキを使用し制作されています。贈呈を受けた親は、「本物の木に触れる機会が少ないうので、木のおもちゃはとてうれしい。子どもも、木に触れ、温もりを感じながら育って欲しい。」と大変好評でした。なお、平成三〇年度は、十ヵ月健診時に保健師から贈呈する予定となっています。

〇地場産業の振興

今後の誕生祝い品は、埴町木工組合が町産材を使用し制作することとなっており、すでに木育用玩具加工機械を購入し試作品を検討しています。また、今年度からは、木育インストラクター養成講座を開始し、町が費用を負担し東京おもちゃ美術館に受講生（六月の講座には七名）を派遣しており、地域で木育を推進していくリーダーを養成する取組も

行っています。

〇木育キャラバンの開催

平成二八年度から、東京おもちゃ美術館の協力を得て町内で木育キャラバンを開催しており、毎年度延べ一、〇〇〇名を超える来場者で賑わっています。来場者からは、「木のおもちゃで遊ぶ機会は少ないので、とても楽しかったです。」などの声が聞かれ、約二五〇種類の木のおもちゃに、子ども達は目を輝かせて楽しく遊んでいました。

〇子育てサロンでの木育

町立図書館に併設されている子育てサロンには、木育キャラバンで「木の匂い、温もりがとても良かった」



誕生祝い品贈呈



誕生祝い品（花のつみき）



木育キャラバン



誕生祝い品（花のつみき）



木育キャラバン



子育てサロン（木製たまごのプール）

た。」と母親からの強い要望を受けて購入された「木製たまごのプール」が設置されており、子どもが楽しく遊んでいました。

〇おわりに

埴町のウッドスタート宣言による取組は、子育て支援を所掌する健康福祉課が担当し、林業担当課を始め役場内各課と連携し実施しています。町では、宣言により木育への関心を高めることができたので、今後は継続的な取組ができるよう役場内及び町内の組織体制を整備することとしています。今後も、「木の町はなわ」にふさわしく、木育を積極的に推進されますようお祈り申し上げます。



素材の価格〈工場着価格〉（5月15日現在）

（単位：㎡当り千円）

区分	形 量		材質	樹 種	中 通 り 地 方		会 津 地 方		浜 通 り 地 方		県 平 均	
	径 (cm)	長さ (m)			当 月	前月差	当 月	前月差	当 月	前月差	当 月	前月差
一般用材	小	5～9	並	スギ	9 (8～10)	0	(0～0)		9 (8～9)	0	9 (8～10)	0
		10～14	並		12 (12～13)	△1	(0～0)		11 (11～12)	△1	12 (11～13)	0
	中	14～22	並	スギ	12 (11～13)	0	11 (11～11)	0	12 (11～12)	0	12 (11～13)	0
			並	ヒノキ	19 (16～22)	0	15 (15～15)		16 (16～16)	0	17 (15～22)	0
			並	スギ	16 (15～17)	0	11 (10～12)	0	16 (16～16)	0	15 (10～17)	0
		20～28	並	ヒノキ	30 (25～35)	0	(0～0)		22 (19～24)	0	26 (19～35)	0
			並	スギ	12 (12～14)	△1	11 (10～11)	0	12 (12～12)	0	12 (10～14)	0
			並		12 (11～12)	0	12 (12～12)	0	12 (11～12)	0	12 (11～12)	0
	外	30以上	並	アカマツ	9 (7～11)	0	(0～0)		9 (9～10)	△1	9 (7～11)	0
			並		8 (5～10)	0	(0～0)		7 (6～8)	△1	7 (5～10)	△1
	材	28以下	並	米ツガ	(0～0)		(0～0)		29 (29～30)	0	29 (29～30)	0
			並	米マツ	(0～0)		34 (34～34)	2	29 (28～29)	0	30 (28～34)	0
			並	エゾマツ	(0～0)		(0～0)		27 (25～28)	0	27 (25～28)	0
	パルプ用材		並	アカマツ	(0～0)		(0～0)		25 (25～25)	0	25 (25～25)	0
			並	カラマツ	(0～0)		(0～0)		26 (25～27)	0	26 (25～27)	0
			並	マツ	7 (7～7)	0	(0～0)		6 (5～6)	0	6 (5～7)	0
			並	広葉樹	9 (9～9)	0	(0～0)		6 (6～6)	0	8 (6～9)	0
			並									

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

区分	形 量		材質	樹 種	会 津 共 販		い わ き	
	径 (cm)	長さ (m)			当 月	前月差	当 月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0～0)		7 (6～9)	0
	13～14		並	カラマツ	7 (7～7)		8 (7～8)	0
	16以上		並	カラマツ	14 (14～14)		10 (9～11)	0

四月の原木市場への入荷状況は、前月比一割減（前年比六割増）の三〇、九八七立方メートルとなっている。
販売量は、前月比一割減（前年一一割増）の三一、一〇五立方メートルとなっている。
五月の価格は保合いとなっている。

東北中央自動車道は、山上ICから相馬ICまでの開通が待ち遠しいです。ただ、八木沢トンネル内は、夕方たまりに埃っぽくなっていますし、急な坂道のトンネルが厳冬期にどうなるのがちょっと心配です。

もう一つは、県道十二号（原町川俣線）の八木沢峠に「ながーいトンネル（八木沢トンネル）」が開通し、細かなカーブが連続する上、大雪で通行止めになった区間を通らずに済むようになりました。先に行われた水境峠の登坂車線等の改良と併せて、今回のトンネル開通により飯舘村の通過が格段に容易になりました。

県北地方から相馬地方への二つのアクセス道が最近新しくなっていることは皆さんご存じでしょうか？
一つは、国道一一五号に代わり、霊山ICから相馬市山上ICまで東北中央自動車道が開通し、阿武隈高地をヘアピンカーブも無くノンストップで越えられるようになりました。



新しい道

相双農林事務所 佐藤 淳

とはいえ、この新しい二つの道により、相双で働く人が増え、物流が活性化し、復興がより一層進むことを期待して止みません。

まだ通ったことが無い方は、この夏、一度相双に遊びに来ていただいて、「だいぶ楽になったなあ。」と実感してみてください。



県道12号 八木沢トンネル

表紙の写真



「新緑に咲く花」

第32回ふくしま緑の写真コンクール佳作
受賞者 笹岡伸仁さん(猪苗代町)
撮影場所：昭和村

発行人
発行

陽光社印刷株式会社
（定価 一〇八円）

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

はなしの
ひろば

挑む

今夏、一〇〇回目となる全国高校野球選手権大会。だが、もうひとつの高校野球大会がある。それは、最後の夏に甲子園のベンチ入りが叶わなかった補欠選手三年生同士の引退試合で、多くの地方で行われている。この引退試合は放映されることはないが、この試合にも心寄せてみたいと思う。今大会甲子園球場にたてるのは、参加三、七八一校の内五十六校。ほんのひと握りだ。ところで、大会歌だが、一九四八年朝日新聞が公募した五、二五二編から選ばれた古賀大介作詞、古閑裕而作曲「栄冠は君に輝く」。七〇年もの間歌い継がれてきても今なお新しい。そして、この大会歌が誕生するまでの男の夢、挫折、家族の物語が「ああ栄冠は君に輝く」の映画となり、七月下旬より全国で公開されている。また、六月末には水島新司著野球漫画「ドカベン」が四六年の連載を終えた。個性的な選手が活躍する物語で累計二〇五巻の単行本が出版されている。水島氏自身野球選手になりたかったがそれが叶わず漫画の世界で充分夢を果たしたと言われていた。大会歌の作詞者古賀氏も怪我で野球を断念、その思いを歌に込めたとのこと。水島氏も（故）古賀氏も長い間、野球への「夢」から逃げることはなかったのだ。

そして、気になるのが甲子園の「土の持ち帰り」だが、最初に持ち帰ったのは、一九三七年第二三回大会の決勝戦で敗れた熊本工業の投手（故）川上哲治氏（元巨人軍選手・監督・野球解説者）だった。甲子園の土をユニフォームのポケットに入れて持ち帰り、自校の練習場にまいたそう。

この熱さや暑さが鎮まる頃、夏の光も衰え始め、木陰の伸びや夕暮れの早まりに少しずつ秋を感じるようになる。もう一〇一回目の夏への挑戦は始まっている。

お知らせコーナー

平成30年度ふくしまの未来を育む森と住まいのポイント事業の申請を受け付けています。

本県の豊かな森林環境を保全し、循環型社会の形成を図るため、県産木材を使用して住宅を建設（新築・増改築・購入）する建築主に、県産の農林水産物や商品券等と交換できるポイント（1ポイント1円相当）を交付します。



1 交付するポイント

一般の方 20万ポイント
被災者等、県外移住者、子育て世帯 30万ポイント
（注）本年度から、子育て世帯の方は、30万ポイントの交付対象になりました。

2 交付の要件

次の要件を全て満たす方（建築主）
（1）福島県内に自ら居住するための木造住宅であること
（2）施工業者の主たる営業所は福島県内にあること
（3）所定量以上の福島県産木材（柱、梁、土台等）を使用していること
（4）平成30年4月1日以降に完成している住宅であること
（5）建築基準法等の関係法令に適合している住宅であること
（6）世帯員のいずれも過去に本事業によるポイントの交付を受けていないこと

3 申請の期間

平成30年7月2日（月）から平成31年2月28日（木）まで
ただし、最大200棟までで先着順となります。
（注）申請は、木造住宅建設等完了後に受け付けます。

4 申請の方法

所定の申請書を作成し、次の窓口へ郵送又は持参してください。
福島県木材協同組合連合会
〒960-8043 福島市中町5-18（福島県林業会館内）
申請書は、問い合わせ窓口又は次のホームページから入手してください。
福島県木材協同組合連合会 <http://www.fmokuren.jp/>
福島県土木部建築指導課 福島県トップページから「ふくしま未来を育むポイント」で検索

5 交換商品

福島県産品（農林水産品・加工食品・木材製品・工芸品・その他）
商品券（全国型・地域型）
（注）商品券との交換は、交付ポイントの50%が上限となります。

6 お問い合わせ窓口

福島県木材協同組合連合会 TEL 024-523-3307
福島県土木部建築指導課 TEL 024-521-7529
福島県の建設事務所 各建築住宅課

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



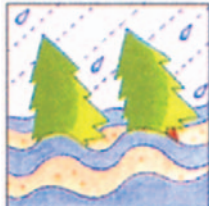
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



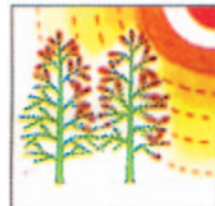
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



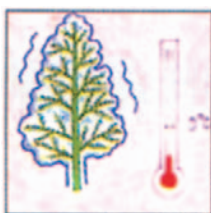
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載

- ・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
- ・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能



新開発のスタッドローラ(オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス



For the future with forest



イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

(北関東支店) 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支店) 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL(巣処理用スプレー)
ハチノックS(携帯用スプレー)



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ TEL. 03(6740)7777
平日 9:00~17:00(土・日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR



刈幅: 1500mm 出力: 27.5kW

SR3100



破砕径: 200mm 出力: 18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1